

Lawe i ka ma'alea a kū'ono'ono

2013年度も締めくくりの時期を迎えて、今年も卒業生を送り出す季節がやってきました。本校の教職コースを選んだ学生2名が4月から教師として教壇に立つことをはじめ、講師として教育現場でさらなる努力を継続する学生も送り出すことになり、たいへん喜ばしい春です。

2014年2月半ばより再びハワイ島に渡り、2013年9月に授業観察と教員へのインタビューを認可くださった学校、Ka 'Umeke Kā'eoを再訪しました。今回の目的も「ハワイ語イマージョン教育」に焦点を当てて、同校が所有・管理運営する fishpond における理科の授業と放課後の課外活動の観察、担当教員へのインタビューを行いました。

非常に有意義な時間を持つことができたなかでも、9月に見学させていただいた課外活動の1年間の集大成であるポスター発表が数多く展示されていたことが特に印象的でした。学生たちは写真やグラフなども効果的に使用して、科学的理論にそって自分たちの研究を発表しています。（この原稿をご覧の方々に写真を提供できるのがベストなのですが、諸般の権利、特に肖像権に関係することですので、それは今後の原稿や口頭発表に譲ることにします。）私が見学させていただいた活動では学生たちがペアになって fishpond の水質調査を行い、そこで活動している海藻や海水生物の生態について報告するというものです。先生は学生たちに **keen observers** になることを力強く推奨されていて、彼女らの注意を先走ってコントロールすることをしません。ある程度の「待つ期間」を設けて、彼らが自発的に発見することを忍耐をもって指導されています。

今回は以前よりも見学時間を長く得られたため、クラスの合間にも担当の先生と一対一でお話しする時間を長くいただけました。そこで、彼女が教師として大切にしておられる哲学について質問しところ、「rearing」とシンプルな一言が返ってきました。以前の拙稿で報告した「kuleana」という言葉が含意するものとも重なる部分が多く、教育とは今後の世代に責任をもってバトンをつないでいくことだという認識を新たにしました。

今回の表題は、主に卒業していく学生に送りたい言葉です。皆さんが選んだ進路が教育現場であれば、仕事を通して自分が身に着けてきた知識と知恵をふかめられるよう、教育現場でない場合でも職場や日常生活において一人の大人として自分の見識を深められるようにアンテナを張り続けていってください。玉造から応援しています。

Lawe i ka ma'alea a kū'ono'ono.

Take wisdom and make it deep.

参考文献

Pukui, M.K. (1983). *ʻŌlelo Noʻeau*. Bishop Museum Press. Honolulu, Hawaiʻi.